

事項二 同盟及聯合國ト土國トノセーヴル條約軍事条項等実施

竝希土両國間調停問題ニ関スル件

三五 一月十五日 内田外務大臣ヨリ 在仏國石井大使宛 (電報)

セーヴル條約改訂、賠償問題、対露一般政策

ニ関スル我態度ニ付訓令ノ件

第五〇号

貴電第三三号末段ニ関シ

一、「セーヴル」條約問題ニ関シ我方ノ立場トシテハ可成同条約ノ変更ナキヲ得策トスルモ若シ希臘ニ對スル關係又ハ土耳其側ト妥協ノ必要上改訂ノ已ムナキニ至リタル場合ニハ帝國カ同条約ニ依リ享受スル権利利益殊ニ海峡管理自由通航及「カピテュレーションス」制度ニ關スル利益茲領土問題委任統治民族保護機會均等其ノ他ニ関シ帝國カ五大國ノ一員トシテ有スル特殊ノ地位等ニ付何等変改ヲ見ルコトナキ限り貴官ノ裁量ニ依リ適宜措置セラレ差支ナシ但シ万一帝國ノ利害ニ重大ナル影響ヲ及ホスカ如キ改訂カ問題トナル場合ニハ改メテ請訓セラレタシ尚希臘ニ関シテハ帝

ザル様御留意アリ度シ

在歐米各大使及在白公使ヘ転電セラレタシ

三六

二月五日 内田外務大臣ヨリ 在仏國石井大使宛 (電報)

セーヴル條約軍事条項実施委員会ニ我が國ヨリ

モ委員ヲ出スコトトナリ居ルヤ問合ノ件

第一二四号

在本邦英國大使ヨリ英國政府ハ客臘中在土耳其聯合國陸軍ノ委員會委員長及英國側委員ヲ任命シ君府ニ派遣セル趣通報アリタル處右委員会ヘハ我國ヨリモ委員ヲ出スコトトナリ居ル次第ナリヤ將又客年十一月在英大使來電第九九八号對土條約軍事条項實施計画ハ英國案ニ決定シタリヤ回電アリタシ

三七 二月十一日 在仏國石井大使ヨリ 内田外務大臣宛 (電報)

セーヴル條約軍事条項実施委員会ニ日本側軍

事代表者參加問題ニ關スル件

第一九六号

(二月十二日接受)

貴電第一二四号ニ關シ

二 同盟及聯合國ト土國トノセーヴル條約軍事条項等実施並希土両國間調停問題ニ關スル件 三六 三七 二九

国ハ英仏等ノ如ク特殊ノ條約關係ナキヲ以テ其ノ内政干涉ニハ可成参加スルヲ避ケ唯平和條約其他ノ條約上同國ノ負担スル義務ノ確保ヲ以テ旨トシタキ意図ナリ

二、賠償問題ニ關シテハ既往累次ノ訓令ニ依リ適宜御処置相成度シ唯若シ今次ノ最高會議又ハ其ノ他賠償ニ關スル諸會議ニ於テ各損害ニ關シ具体的ニ証拠書類等ヲ提出セシムヘシトノ議アルトキハ帝國ノ如キ遠隔セル國々ニ於テハ短期間ニ之等ヲ整理シ送付スルコトハ事實上不可能ナルノミナラス亦賠償委員会ニ於テモ一々各國ノ提出スル書類ヲ審査スル時日モ之ナカルヘキヲ以テ大体貴官ノ手元ニ在ル程度ノ材料ヲ基礎トシテ審議ヲ為スコトニ決定スル様可然主張セラレタシ

三、対露一般政策並ニ對露通商問題ニ付テハ帝國カ且下西比利亞ニ駐兵シ居ル關係及朝鮮國境ニ於ケル治安問題等ニ顧ミ政府ニ於テ慎重考慮中ニ付裏ニ在英大使宛訓令ニ依リ御承知ノ通り本問題ニ付テハ他國ノ行為ニ依リ拘束セラレ

一、對土條約軍事条項實施委員編成ニ關シ當地聯合軍事會議ノ決議ニ依レバ全委員長(該委員長ハ二ヶ年交替トシ第一回ハ英國將官ヲ以テ長ニ任ス)ノ下ニ Comité de Direction ヲ設ケ海峡占領軍司令官タル仏、伊両國ノ將官及帝國軍事監督委員中ノ高級古參將校ヲ以テ委員トシ該委員ハ各自軍事条項実施ニ關スル全業務ニ關シ決議權ヲ有スルコトトナリ居ルモ英國陸軍省ニ於テ作製セル仮計画ナルモノニ依レバ「コミテ・ド・ディレクション」ノ存在ハ必ずシモ之ヲ否定シアラザルモ委員長以外ノ各委員ハ單ニ君府ニ於ケル大使會議ノ諮詢機關ニシテ土軍編成委員会ノ業務ニハ干渉ノ權ナキ如ク記載シアリ且右英國側ノ仮計画中ニハ「コミテ・ド・ディレクション」中ニ帝國將校ノ參加ヲ明記シアラズ

二、又十一月九日附英國陸軍省ヨリ在倫敦帝國大使館附陸軍武官宛書面ニハ巴里ニ於ケル大使會議及聯合軍事會議ハ對土條約ニ關スル諸問題ヲ處理スルノ權ナキコトヲ附記シアリ之ヲ要スルニ英國陸軍側ノ真意ハ第一委員長タル英國將官ヲシテ全業務ヲ裁断セシメントスルニ在ルモノノ如ク尤モ本件ニ關シ客年三月倫敦最高會議ノ當時珍田大使ヨリ

二 同盟及聯合國ト土國トノセーヴル條約軍事条項等実施並希土両國間調停問題ニ関スル件 三八 三九 三〇

ハ特ニ土軍編成ニ関スル委員会ニ日本側軍事代表者ノ参加ヲ求メザリシ処其後當地聯合軍事會議ニ於ケル帝國軍代表ハ其ノ筋ノ訓令アリタルモノト見エ主張ノ結果前記聯合軍事會議案ノ成立ヲ見ルニ至レル次第ナリ

就テハ陸軍當局トモ御協議ノ上軍事會議案並英國仮計画案ノ何レヲ執ルベキヤニ付何分ノ御決定相成タシ

三八 三月八日 内田外務大臣ヨリ
在仏國石井大使宛（電報）

聯合軍事會議案ヲ採リ軍事条項實施ニ参加ノ趣旨ニテ措置方回訓ノ件

附記 三月二日附陸軍省ヨリ外務省宛通牒

第二一九号 貴電第一九六号ニ関シ
右参考ノ為英、伊及土へ転電アリタシ
（附記） 三月二日附陸軍省ヨリ外務省宛通牒

第三九号 貴電第一九六号ニ關シ
帝国政府ハ聯合軍事會議案ヲ採リ軍事条項ノ実施ニ參加スルノ権利ヲ保有シ置キタキニ付右ノ趣旨ニテ可然措置セラレタシ

右参考ノ為英、伊及土へ転電アリタシ
（附記） 三月二日附陸軍省ヨリ外務省宛通牒

第三九号 貴電第一九六号ニ關シ
右参考ノ為英、伊及土へ転電アリタシ
（附記） 三月二日附陸軍省ヨリ外務省宛通牒

公式ニ最高會議第五所載土耳其委員提出ノ「セーヴル」條約改訂希望ノ諸点ヲ參酌シ改訂案起草ヲ合議シ居ルヲ以テ

日本モ之ニ參加セラレタキ旨申越シタルニ付蓋藤ヲ列席セシメタル處「キャムレール」起草ノ改訂案中第三十六条削除ニハ英國側ニテ異存アリ其ノ他軍事条項ニ關シ英國陸軍省側ニ於テ些少ノ留保ヲ為セルノ外大体ニ異議ナク日本關係ノ事項ニ對シテハ我ニ不利ナル改訂ナキヲ以テ貴電第九

一号ノ趣旨ヲ体シ英仏伊三国ニテ同意スル限り我方ニ異議ナキコトヲ申出デシメタル件

第三九〇号 軍事条項實施ニ参加ノ儀ハ當分現状ノ儘トス

ル方有利ナル旨稟申ノ件

第三九〇号 軍事条項實施ニ参加ノ儀ハ當分現状ノ儘トス

第三九〇号 軍事条項實施ニ参加ノ儀ハ當分現状ノ儘トス

（三月四日接受）
對土條約軍事条項ノ実施ハ聯合軍事會議案ニヨリ実施スル事ト致度
對土條約實施ノ如何ハ直接帝國ニ其ノ影響ヲ及ホスコト
尠ナキモ事苟モ五大國ノ一トシテ歐州問題ニ參加シ得ル
ノ権利アルモノハ之ヲ保有シ置クヲ可トスヘシ而シテ英
國ノ仮計画案ナルモノハ英國ヨリ公式ニ在仏國聯合國軍
事會議ニ交渉シタルコトナキヲ以テ一ツノ私案タルニ過
キス又對土條約實施ヲ他ノ一般講和問題ノ審議手続ト異
ナル方法ニ依ルノ必要ナキヲ以テ本案ノ通取扱ヲ可トス

第三九号 貴電第一九六号ニ關シ
右参考ノ為英、伊及土へ転電アリタシ
（附記） 三月二日附陸軍省ヨリ外務省宛通牒

四一 四月十三日 在仏國石井大使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

内田公使君府赴任ニ閲シタノ紙好意的社説掲

載ノ件

(四月十五日接受)

内田公使ノ君府赴任ニ閲シ四月十三日 Temps ノ社説ニ左ノ一節アリ

日本ハ今回土耳其ニ Haut Commissaire ヲ派遣スルニ決シ内田氏ハ今將ニ君府ニ赴任セントス日本ハ土耳其ト聯合与国トノ間ニ平和ノ成リ次第君府ニ大使館ヲ設置スル計画ナレハ同 Commissaire ハ追テ大使トナルヘク從テ其性質

ハ一時的ノモノニ非ズ日本外交ノ周到着実ナルハ今後東方外交ノ觀察者ト為リ又遠カラズ土耳其ト通商條約(脱)日土關係ノ先驅者トナルベシ日本ハ土耳其ニ對シ何等領土的野心ヲ有セザルヲ以テ其政策ハ要スルニ土耳其ノ獨立擁護ニアラン又過激派ガ動モスレハ採ラントル露国年来ノ南進策ヲ監督セントスル希望モアル可シ日本ガ土耳其ニ外交官ヲ送リ且ツ土耳其ノ獨立擁護者トンテ起タンカ七千七百万ノ人口ト優勢ナル陸海軍トヲ有スル日本ノ威望ハ大ナラ

ザルヲ得ズ免ニ角日本ガ Commissaire ヲ派遣セルコトハ土耳其ニ取リテ莫実益アルベシ若シ吾人ノ信ズル如ク日本ノ Commissaire ガ君府ニ到着後事情ヲ公平ニ觀察シ土耳其实支持ノ任ニ当ランカ之レ全ク吾人ノ意ニ適合スル處ナリ云々

四二 五月十日 在仏國石井大使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

海峡管理委員会ノ制度ニ閲スル和蘭、丁抹、

諾威、瑞典四國公使ノ書翰ニ対シ列國ト協調

ノ趣旨ニ依リ措置方訓令ノ件

第四四一号

本月二日和蘭、丁抹、諾威、瑞典四國公使來省(丁抹ハ瑞典公使ニ於テ代表)各々同文ノ書翰ヲ本大臣ニ手交シタルガ其要旨ハ「セーヴル」條約ニ依ル海峡管理委員ノ制度ハ他國ノ領土内ニ通航稅徵收權警察權其他廣汎ナル職權ヲ有スルノ國際的自治組織ヲ設ケルモノナル處右通行稅ノ賦課ハ前世紀中通行稅ヲ廢止シタル諸協約ノ精神ニ悖リ近代思想ニ反スルモノト謂フヘク同委員會ニ代表者ヲ有セザル上記四國ハ将来ノ為一切ノ權利ヲ留保セント欲スト云フニ在リ

右來翰ニ對シテハ單ニ受領ノ旨回答シ置キタルガ任國政府ニ於テモ定メシ同様ノ通牒ニ接シタルコトナルベク之ガ処理方ハ何レ最高會議又ハ大使會議ノ議ニ上ルベキコトト思考セラルル処其場合ニハ他ノ諸國ト協調ノ趣旨ニ依リ然ル可ク措置セラレタシ

右訓令トシテ在英大使ニ転電シ又参考トシテ在伊独各大使、在瑞典和蘭各公使及在土内田公使ヘ転電アリタシ

他ノ主要聯合國委員トノ間ニ何等力処置セラレタリヤ

四三 五月十六日 在土国内田公使宛(電報)

主要聯合國高級委員會議ニ閲シ其性質等ニ付

問合ノ件

第六号

貴地ニ於ケル主要聯合國高級委員會議ニ閲シ左ノ諸點電報

アリタシ

(一)該會議ノ性質及現ニ處理シツツアル事項

(二)該會議ト巴里大使會議トノ關係

(三)該會議ニシテ若シ主要聯合國一般又ハ對土條約實施準備

ニ關スル問題ヲ處理スルモノナリトセバ貴官ニ於テモ当然ニニ参加セラルベキ筋合ト思考セラルル処此ノ点ニ當

二 同盟及聯合國ト土國トノセーヴル條約軍事条項等実施並希土両國間調停問題ニ閲スル件 四三 四四 一一一

二 同盟及聯合國ト土國トノセーヴル條約軍事条項等実施並希土両國間調停問題ニ関スル件 四五 四六 四七 三四

四五

五月三十一日 在英國林大使宛（電報）

英仏伊高級委員会議ニ於テ審議スペキ事項ニ

依リテハ我高級委員ヲ参加セシメ度意向ナル
旨申入方訓令ノ件

第三三八号

本大臣宛在君府内田公使來電第一九号ニ閔シ

貴官ハ任國政府ニ對シ帝國政府ハ聯合國共同ノ措置トシテ
曩ニ内田公使ヲ在君府高級委員ニ任命シ同公使ハ既ニ着任
シ居ル處英仏伊高級委員会議ニ於テ軍事占領ニ關スル事項
ヲ討議スル限りハ日本ニ於テ參加ノ希望ナキモ海峡管理並

對土條約實施準備等ニ付キ聯合國全般ノ利害ニ關スル事項

審議ノ場合ニハ該會議ニ我高級委員ヲ參加セシメタキ意向

ナル旨ヲ申入レ先方ノ應答振回電アリタシ

右本大臣ノ訓令トシテ在仏伊各大使ニ転電シ且参考トシテ

内田公使ヘ転電アリタシ

四六 六月四日 在仏國石井大使ヨリ

内田外務大臣宛（電報）

英仏伊高級委員会ニ參加問題ニ付仏國當局ニ

内田公使ヘ転電アリタシ

機密公第一号

（九月一日接受）

大正十年七月六日

在土耳其

特命全權公使 内田定惣（頭字署名）

外務大臣伯爵 内田康哉殿

土耳其出張ニ關シ報告ノ件

本使ハ曩ニ當國出張ノ命ヲ受ケ去十二月下旬東京出発本年

二月十四日巴里ニ到着セシ處偶々對土條約修正方ニ關シ倫敦ニ於テ聯合國最高會議開カルル事トナリタルヲ以テ其模

様ヲ承知スル為同月十八日英京ニ渡リ三月十五日迄滯在シ

同國代表者ハ御承知ノ通り君府ニ於ケル土耳其政府總理大臣 Tewfik Pasha 一行ノ外ニ Angora 政府ヲ代表スル外務委員 Bekir Samy bey 一行モ之ニ加ハリ會議中ハ勿論

其前後ニ於テモ同委員カ専ラ聯合側ニ對シ折衝ノ任ニ当リシガ本使ハ先ツ總理大臣ニ面会シ今回講和條約實施準備ノ

為帝國政府ノ代表者トシテ土耳其へ出張ヲ命セラレタル旨ヲ告ゲタル處同大臣ハ往年「エルトグルール」艦ノ派遣及シ艦遭難ニ際シ日本政府ノ義挾の美挙アリタル以来土耳其人

問質ノ件

第八四四号

（六月五日接受）

在英大使宛貴電第三三八号ニ閔シ

御引用ノ第九号電信未着ナルモ不取敢松田ヲシテ四日政務局長ニ會談セシメタル處同局長ハ御來電ノ趣旨ノ如キハ云

フヲ待タザル所ト考ヘ居リ内田公使ノ君府出発ハ余程前ノコトト記憶シ居ル處同公使ハ高級委員会ニ參加シ居ラザル次第ナリヤト反問セルニ付松田ニ於テモ斯カル理由ナシト

考ヘ居ルモ具体的ノ事実ハ未ダ知ル所ナシ何レニシテモ仮に政府ニ於テ右様考ヘ居ラルニ於テハ幸甚ナリト答へ置キタリ

君府及英ヘ転電済

四七 六月十三日 在伊國落合大使ヨリ

内田外務大臣宛（電報）

英仏伊高級委員会ニ參加方申入ニ對シ伊国外

相好意的態度表示ノ件

第一六七号

（六月十四日接受）

在英大使宛貴電第三三八号ニ閔シ十日外務大臣ニ會見申入タル處大臣ハ當方申出ノ次第ハ至極尤ト思考スルニ付早速

四八 六月二十五日 在英國林大使ヨリ

内田外務大臣宛（電報）

日本委員ノ君府高級委員会參加申入ニ對シ英

國外務省回答ノ件

第七七八号

（六月二十七日接受）

往電第七四三号ニ閔シ

二十四日付ヲ以テ外務省ヨリ君府高級委員会議事ハ殆ント全部軍事占領事項ニ限ラレ居ルコト並在君府英國高級委員

ハ仏、伊同僚ト協議シタル結果日本ノ利害ニ關スル事項附議ノ場合ニハ英、仏、伊三国委員ヨリ日本委員ニ參加方通告スル方日本委員ニ便宜ナル可キ意見ナルコトヲ述ヘ本邦政府ニ於テ右ニ同意アリタキ旨回答シ来レリ不取敢電報ス仏、伊及君府ヘ転電セリ

四九 七月六日 在土国内田公使ヨリ

内田外務大臣宛

土耳其出張ニ關シ報告ノ件

二 同盟及聯合國ト土國トノセーヴル條約軍事条項等実施並希土両國間調停問題ニ關スル件 四八 四九 三五

ハ朝野ヲ問ハズ皆日本ニ対シ特別ノ好感ヲ有スルニ至リ特ニ日露戦争中ハ挙国一致日本ニ対シ同情ヲ表シタル次第ナレバ土耳其政府ニ於テハ夙ニ条約ヲ締結シ両國間ノ友誼ヲ益々親密ナラシムルト同時ニ通商航海ノ便利ヲ計ラントスル議アリシモ Capitulation ノ許否ニ関シ両國政府間ニ意見ノ相違アリ遂ニ其議行ハレズ隨テ是迄無条約ニ打過ギ互ニ外交代表者ヲ派遣スル事ナカリシガ今回貴官カ帝国政府ノ代表者トシテ我國ニ出張セラル事ハ予ガ国民ト共ニ最モ満足スル所ナリト語リタルニ付本使ハ之ニ対シ日本カ Capitulation ヲ求メタルハ唯列国ニ比シ劣等ノ位置ニ立ツ事ヲ避クル為メ条約上他ノ諸國ト同等ノ権利ヲ得ント欲ンタルニ過ギズ故ニ今後日本ガ条約ニ依リ Capitulation ニ均霑スルコトアルモ若シ他ノ諸國ガ皆其撤廃ニ同意スル場合ニハ日本モ亦喜ンデ之ニ同意スベシト答ヘタリ

聯合側ハ御承知ノ通り倫敦最高會議ニ於テ「セーヴル」条約ニ対スル「アンゴラ」側ノ反対ヲ緩和スル為種々土耳其ニ有利ナル条件ヲ持出し希土両國間ノ爭議ヲ調停シ同条約ヲ修正シタル上其批准ヲ行ハシメント試ミタルモ遂ニ其目的ヲ達セズ三月十二日ヲ以テ談判ヲ打切り希土両國カ此上戦争

タリ

「チュフィク、ペシャ」ハ七十余歳ノ老人ニシテ頗ル温厚篤実ノ君子ナルガ如クニ見受ケラレ「ベキール、サミ、ベイ」ハ四十歳前後ノ壯年ニンテ容貌魁偉其言語動作ハ頗ル活氣ヲ帶ビタリ

尚今回本使カ英、仏、伊三国ノ占領地タル君府ニ出張スルニハ前以テ此三国政府ニ吹聴シ置クコト適當ト考ヘ林大使ノ紹介ニ依リ先ツ英國外務次官補 Sir Eyre A. Crowe 氏ニ面会シ今回土耳其出張ノ次第ヲ話シタルニ同次官ハ對土講和条約実施ニ当リ海峡管理ニ關シテハ日英両國委員ガ互ニ協同シテ働く様致度トノ希望ヲ述べ本使出張ノ件ハ直ニ在君府英國高級委員ニ通報スヘシト語レリ當時希土間ノ調停ハ殆ト絶望ノ域ニ達セシガ本使ハ希土両國ハ最早戦争ニ疲レ速ニ講和ヲ希望シ居ルモ從来ノ行キ掛リ上講和出来ザルニ非ズヤト尋ネタルニ次官ハ之ニ答ヘ否夫レハ事實ニアラズ両國共戦意強ク各武力ヲ以テ其主張ヲ貫キ得ベシト確信シ居ル故差當リ調停ノ見込ナク對土講和条約ノ批准迄ニハ尚幾多ノ時日ヲ要スベシトノコトニ付本使ハ更ニ土耳其ハ對伊國及巴爾幹戦争以来既三十有余年間外国トノ戦争ヲ繼

シ今回土耳其出張ノ次第ヲ告ケタルニ彼ハ土耳其ト聯合側間ノ講和ハ未ダ成立ニ至ラザルモ土耳其人ハ平素日本ニ対シ頗ル好感ヲ有スルヲ以テ貴官ハ敵國ノ使臣トシテヨリモ寧ロ友國ノ代表者トシテ我國民ニ歓迎セラルベシト語リンガ本使ハ尚私見トシテ土耳其ガ歐州大戰ノ結果失ヒタル領土及利權ヲ此際武力ヲ以テ一時ニ回復スルコトハ到底出来ベシト思ハレザルニ付若シ「セーヴル」条約ガ多少トモ土耳其ニ有利ナル条件ヲ以テ修正出来得ルナラバ一日モ速ニ其修正ヲ諾シテ之ヲ批准シ平和状態ニメリタル後外交手段ニ依リ漸次其回復ヲ試ムル事得策ニアラズヤト語リタルニ彼ハ之ニ対シ自分モ全ク同感ナリ「セーヴル」条約ハ土耳其ノ為如何ニモ苛酷ニシテ之ヲ実行サレテハ到底独立國トシテ國民生活ヲ營ム事出来ザルニ依リ吾人ハ之ニ反抗スル為義軍ヲ起シタルモ今回ノ會議ニ依リ聯合側ハ大ニ譲歩シ之ヲ緩和スル条件ヲ提出セル故一旦帰國ノ上國民議會ニ諮詢積リナリ就テハ遠カラズ平和克復ニ至ルベシト思ハルト答ヘ

二 同盟及聯合國ト土國トノセーヴル條約軍事条項等実施並希土両國間調停問題ニ関スル件 五〇

二八

本使ハ去四月十八日朝君府ニ到着セシガ土耳其政府ノ総理大臣及外務大臣ハ小蒸氣船ヲ仕立テ其代表者ヲシテ本使一行ヲ途中ニ出迎ハシメ尚当地ニ於ケル英仏伊各國高級委員モ亦各其代表者ヲ船内ニ派遣シ本使ヲ出迎ハシメタリ

本使一行ガ馬耳塞港出帆ノ当日即去四月十二日巴里發行 Le Temps 新聞ハ帝國政府ガ今回君府ニ高級委員ヲ派遣スル事ヲ頗ル重要視スル社説ヲ掲ケ日本ハ今後土耳其独立ノ擁護者タルベシト論ジタルガ本使到着前後ニ当リ土耳其ノ

諸新聞紙ハ皆本紙ノ來着ヲ歓迎スル記事論説ヲ掲ケ當土耳其实高級委員其他諸国外交代表者土耳其總理大臣及外務大臣、當地希臘、猶太、「アルメニア」各教主（教主ヨリ挨拶アリタルニ付答礼セリ）並ニ英、仏、伊君府占領陸海軍司令官等ヲ訪問シテ着任ヲ披露シ尚英、仏、伊三国高級委員ノ例ニ依リ本使モ亦 Yildiz 宮ニ於テ土耳其皇帝ニ内謁見ヲ遂ゲタルニ陛下ニハ本使ノ來着ヲ嘉セラレ且ツ日土両國ノ親交ニ闊シ優渥ナル御言葉アリ其後皇太子殿下ニモ Dolmab Bagchah 宮ニ於テ内謁見セシニ此亦同様ノ御沙

汰アリタリ

本使一行ハ到着後 Pera Palace Hotel ニ投宿シ差当リ同旅館内ニ事務所 (Haut Commissariat) ヲ設ケ執務セルモ種々ノ不都合ヲ生ジタルニヨリ屢電請ノ末御許可ヲ得向フ一ヶ年間ノ約束ニテ 26, Rue Sira Selri, Pera, Constantine ニ家具附ノ一家屋ヲ借受ケ六月一日ヨリ事務所ヲ同家屋ニ移転セリ尚当地ノ情況ニ関シテハ追テ具報ノ筈ナルモ不敢此段申進候 敬具

追テ本報告ハ疾クニ提出スル筈ナリシモ電報ニテ申上候通り他ノ事務ニ追ハレ今日迄延引致候間左様御諒承相成度候

五〇 八月二十三日 在英國林大使ヨリ

内田外務大臣宛（電報）

将来其儘公使タリ得ベキ有資格者ヲ希國ニ派
遣方意見稟申ノ件

第九七二号

（八月二十四日接受）

近東ノ戰局ハ意外ノ出来事ノ生ゼザル限り今ヤ希臘ノ勝利ハ確実ト觀測セラレ列強ノ希臘ニ対スル態度漸ク変化セントシツアリ戰勝ノ結果希臘ノ要求ハ増大スペク期待セラレ

レ列強ハ同國ニ於テ如何ナル要求ヲ提出スルヤニ付多大ノ注意ヲ払ヒ（現ニ最近ノ最高會議ニ於テ此ノ点ニ付話シ出デタリ）居レル有様ナリ就テハ帝國ニ於テモ「セーヴル」條約ノ改訂乃至歐州並ニ近東政局ニ及ボス影響ニ顧ミ希臘ニ於ケル内外ノ政況ヲ注視スルノ必要アリト思ハル此ノ為ニハ希臘ニ何人カヲ駐在セシムルヲ可ナリト思惟セラルル處右ノ目的ヲ達スル為メニハ他國ノ使臣等ト同等ニ交遊シ他國ノ使臣ヲ通シテ「インフォーメーション」ヲ得ルコト肝要ナルニ付中途半端ナル書記官級ノ者ヲ派スルヨリ将来希臘ニ正式使臣ヲ派シ差支ヘナキ時機ニ至ラバ其ノ儘公使タルヘキ人ヲ代理公使ノ名義ニテ此ノ際雅典ニ派遣セラレテハ如何カト思考ス

五一 十月二十七日 在土国内田公使ヨリ

内田外務大臣宛（電報）

土耳其ノ講和ニ関スル態度ニ付打診ノ件

第一〇〇号

小亞細亞ニ於ケル土耳其國民的運動ノ頑強ナル状勢ニ鑑ミ近東ノ平和ハ英國ガ土國ヲ圧伏セントスル從来ノ政策ヲ改メザレバ仮ヒ一時弥縫セラルルモ到底永続ノ見込ナキノミ

一一 同盟及聯合國ト土國トノセーヴル條約軍事条項等実施並希土両國間調停問題ニ関スル件 五一

三九

ナラズ英國トシテハ此際土耳其ト妥協シ印度其他ノ方面ニ於ケル回教徒ノ反英運動ヲ制止スルコト得策ナラント思ハルルニ依リ本紙ハ往電第九四号十月七日 Hussein 来訪ノ節同人ニ対シ今回俘虜ノ交換ハ英ト接近ノ障害ヲ除キタルモノト認メラルルガ自分ハ平和ト人道ノ為全ク一個人トシテ尚尋ネ度キコトアリ次ノ講和會議ニ於テ国民誓約（ナシヨナル、パクト）ニ列記スル土耳其ノ要求ガ果シテ聯合國ニ容レラルベキヤ否ハ別問題トン若英國ノ斡旋ニ依リ聯合國ニ於テ之ヲ容レ「セーヴル」條約ヲ改訂スル場合ニハ土國ハ印度其他諸外國ニ於ケル回教徒ノ反英政治運動ヲ教唆獎勵セザルコトヲ約束シ得ベキヤト問ヒタルニ彼ハ「アンゴラ」政府ニ問合スベント答ヘタルガ本使ハ其後土国外務大臣「イゼット、パシャ」ニ面会シ前記同様ノ前提ヲ以テ同様ノ問ヲ掛ケタルニ同大臣ハ斯カル場合ニハ土國ト印度其他ニ於ケル回教徒ノ反英運動ヲ教唆獎勵セザルハ勿論英國ヲ援ケ其ノ鎮定方ニ尽力スベント答ヘタリ然ルニ「ハッサ」ハ元国会議員ニシテ国民誓約ノ起草者タル Hamid Bey ヲ伴ヒ十三日更ニ本使ヲ訪問シ「アンゴラ」政府ハ今回講和準備ニ関スル交渉ヲ進ムルコトヲ「ハミッド」ニ

ヲ満足セシムル様取計ヒタラバ土國ハ将来英國ノ為良友タルニ至ルベシト語リタルニ英國政府ノ近東問題解決方針ハ聯合国ハ遠カラズ希土兩國ニ對シ調停ヲ試ムル時機ニ達スベシト答ヘタリ依テ本使ハ同日午後「ハミッド」ヲ招キ前記ノ次第ヲ告ゲ「ラムボルト」トノ會見ハ未ダ機熟セザルモノト認メラルニ付当分見合ス外ナカルベシ但本件ニ関シ之迄自分が英大使ト屢々會見シテ話シタルコトハ互ニ私人トシテノコトナルモ同氏ヨリ其筋ニ電報セルモノト推察セラルニ依リ「アンゴラ」政府ノ意向ハ既ニ英國政府ニ諒解セラレ居ルモノト思考スト語リタルニ彼ハ本使ノ好意ヲ謝シ且本日會見ノ次第ヲ「アンゴラ」ニ電報スベシトテ辞去セリ

五二 十二月五日 在土国内田公使ヨリ
内田外務大臣宛（電報）

在土国内田公使ヨリ
内田外務大臣宛（電報）

土耳其側ノ講和条件ニ関シ土耳其要人トノ会談
二付報告及請訓ノ件

ニ於テ英國ガ土國ニ対シ友誼的態度ヲ執リ成ルベク其要求ヲ満足セシムル様取計ヒタラバ土國ハ将来英國ノ為良友タルニ至ルベシト語リタルニ英國政府ノ近東問題解決方針ハ近日倫敦ニ於テ英希両国首相會見ノ後決定セラルル筈ニ付聯合国ハ遠カラズ希土両国ニ対シ調停ヲ試ムル時機ニ達スベシト答ヘタリ依テ本使ハ同日午後「ハミッド」ヲ招キ前

一月二十九日來訪之

五二 十二月五日 在土国内田公使ヨリ
内田外務大臣宛（電報）
土耳其側ノ講和条件ニ関シ土國要人トノ会談
ニ付報告及請訓ノ件

合タル上返答スペント答へタリ依テ本使ハ十四日夕刻
Rumboldニ面会シ前記ノ次第ヲ語リタルニ夫ハ頗ル興味
アル話ニ付「アンゴラ」ヨリ回答來ラバ承知致シ度シ東
亜細亞ヨリ撤退セシメ「スマイルナ」ヲ土国ヘ返スコトハ出
来得ルカトモ思ハルト答ヘタリ

「ハミッド」ハ十九日更ニ來訪シ「アンゴラ」外務大臣ノ
返電トシテ他ノ回教國ニ於ケル反英運動ノ鎮定方ニ関シ土
國ガ英國ト協力スベキ問題ハ条件協定ノ上審議スルヲ得ベ
シトノ趣ヲ告ゲタルニ依リ本使ハ翌朝「ラムボルト」ニ面
会シ前記ノ次第ヲ語リ兎ニ角「ハミッド」ニ面会シ「アン
ゴラ」側ノ意見ヲ聴キテハ如何ト問ヒタルニ「ハミッド」

ニハ俘虜交換事件ニ就キ數度面会セシコトアルモ講和ニ関

シ自分ヨリ求メテ会談スルハ好マシカラズ然レドモ俘虜交換ニ関シ更ニ会見ノ節先方ヨリ其意見ヲ述ブル場合ニハ之ヲ聴クベシ諸方面ニ於ケル回教徒ノ反英運動ハ何トカシテ制セザルベカラズト答ヘタリ次デ同日午後「ハミッド」ヲ招キ「ラムボルト」ノ談ヲ伝ヘタルニ予メ英國側ニ於テ我國民誓約ヲ承認スル諒解ヲ得ズシテ自分ヨリ講和ノ談ヲ始ムレバ「ケマリスト」ハ和ヲ乞フモノト誤解セラルル虞アリ吾人ハ英國トノ友誼回復ヲ希望スルモ此際何国ニ對シテモ和ヲ乞フモノニアラズサレバ若シ本使ニ於テ同人ニ「ラムボルト」ト會見ノ機會ヲ与ヘ其席上ニ於テ本使ヨリ双方ニ對シ意見交換ヲ勧告シ吳レナバ好都合ナリト語リタルニ付本使ハ熟考ノ上返答スベントテ別レタルガ本使ハ二十二日朝更ニ「ラムボルト」ニ面会シ「ハミット」ハ誤解ヲ怖レ貴官ニ對シ同人ヨリ講和ノ談ヲ始ムルコト能ハズトノコトニ付貴官ト同人トノ意見交換ハ當分出来難キモノト承知アリタシ然シ自分ノ私見ニ拠レバ聯合國側ニ於テハ如何ナル程度迄彼ノ國民誓約ヲ承諾スベキヤ又土耳其側ニ於テ如何ナル程度迄讓歩スベキヤ知ルベカラザルモ土耳其实人ハ英國トノ友誼回復ヲ希望シ居ル次第ナレバ若シ次ノ講和會議

一 同盟及聯合國ト土國トノセーヴル條約軍事条項等実施並希土両國間調停問題ニ関スル件 五五 五六 四四

否ヤヲ予備的ニ英仏伊外相間ニ内議セントスルモノナレバ
我ヨリ割込策ヲ講ズル必要モ利益モ無シト思惟セラルニ
付本使ハ注意傍観ノ態度ヲ維持スル積ナリ

英伊塊土ヘ転電シ蘭「チエッコ」ヘ郵送セリ

リ其ノ通確認アリ再応右ノ趣ヲ高級委員ニ電報ノ答ナリ
外務大臣ヘ転電セリ

英独伊ヘ転電セリ

五五 十二月八日 在仏國石井大使ヨリ

内田外務大臣宛（電報）

五六 十二月十六日 希士間調停問題ニ対シ不介入ノ態度維持方訓
在土国内田公使宛（電報）

令ノ件

第三七号

貴電第一〇五号ニ関シ

近東ノ平和ヲ促進シ「セーヴル」條約改訂問題ヲ速ニ解決
スルコトハ帝國政府ニ取りテモ望マシキ所ナルモ御承知ノ
通英仏間ニハ希士両國ノ交戦並土仏協約等ニ関聯シ最近隨
分機微ノ關係ヲ生シ居リ從テ土國側ノ示スヘキ条件ニ對シ
テモ英仏ノ意見或ハ容易ニ一致シ難カルベキヤモ計リ難ク
且又日本ガ希士両國ノ仲裁者タルガ如キ困難ナル役目ヲ引
受クルコトハ不得策ナルニ付土國側ヨリ進テ条件ヲ内示セ
ムトスル場合ハ格別ナルモ貴官ヨリ先方ニ之カ提示ヲ求メ
ラルコトハ見合サレタシ

第一七一〇号 （十二月九日接受）

土耳其實第一〇五号

往電第九四号ニ関シ

十一月十六日ノ大使會議決議中聯合國高級委員ハ當然日本
ヲ含ム筈ノ處貴電ノ次第ナルヲ以テ松田ヲシテ政務局長ニ
面会本件ノ如ク聯合國ノ一般利益ニ関スル討議ニハ貴官モ
高級委員ニ参加取計方仏國政府ヨリ在君府同國高級委員ニ
訓令アリタキ旨申入レシメ仏國側ニ於テ全然異議ナキ旨回
答アリ依テ十二月七日ノ大使會議ニ於テ更ニ本使ヨリ十一
月十六日ノ決議中聯合國高級委員トアルハ單ニ英仏伊委員
ノミナラズ日本委員ヲ含ム筈ト諒解スル旨ヲ述べ各同僚ヨ

五七 十二月二十八日 在土国内田公使ヨリ
内田外務大臣宛（電報）
外相會議ニ或程度迄日本參加ノ必要アル旨稟

申ノ件

第一〇八号

（十二月二十九日接受）

貴電第三一号ノ趣敬承然ルニ在仏大使発閣下宛電報第一七
五九号（ニ依レハ巴里ニ開カルヘキ三国外相會議ニテ希土
間ニ調停ノ余地有リト決定セバ委細ハ當地高級委員ヲシテ
議セシムヘシト有リ右ノ場合ニハ本使ノ當地ニ在ルコト必
要ナルベシ

將又右外相會議ニ仏發閣下宛第一七〇九号ノ通り石井大使
參加セザルニ於テハ右會議ノ結果問題ヲ当地高級委員ニ移
シテ議セシムルコトト成ルモ本使ハ其ノ議ニ參加スルヲ得
ザルコト相成リ近東問題ノ解決ニ日本ハ全ク除外セラル
ルコト成ルコト思考セラルニ付キ右外相會議ニハ或
ル程度迄日本モ參加スル様御取計アリテハ如何カト存セラ
ル

英仏ヘ転電セリ

五八 十二月二十九日 在土国内田公使ヨリ

内田外務大臣宛（電報）

アンゴラ側トノ接触ニ付英國側ノ疑念ヲ招力
ザル様留意方指示ノ件

第三九号（至急）

十二月二十八日在本邦英國大使館參事官來訪本國政府ノ電
訓ニ接シタル趣ヲ以テ近來貴官ニ於テ「アンゴラ」側ト接
触セラレ居ル為英國側ニ於テ少カラズ迷惑ヲ感ジ居ルニ付
帝國政府ヨリ貴官ノ注意ヲ喚起セラルル様致度シトノ趣旨
ヲ讀上ゲタルヲ以テ本大臣ハ貴官ヨリハ両三回「アンゴ
ラ」政府非公式代表者ト會談セル旨報告アリタルガ貴官ノ
平生ヨリ察スルニ右ハ全ク善意ノ動機ニ出デタルモノナル
ベク且ハ恐ラク同方面ノ情報ヲ得ムガ為ニ外ナラザルベシ
ト思考シタルモ為念約一週間前余り深入リセザル様貴官ニ
注意シ置キタル次第ナリ然シ折角ノ御申出ナルニ付更ニ電
報シ置クヘシト挨拶シ置キタリ固ヨリ御如才ハナキコトト
ハ存スルモ此際種々英國側ノ疑念ヲ招クガ如キコトアリテ
ハ面白カラザルニ付此上トモ十分御留意相成様致度ク尚右
様ノ事情ニ顧ミ往電第三八号「カヌ」出張ノコトモ或ハ

二 同盟及聯合國ト土國トノセーヴル條約軍事条項等実施並希土両國間調停問題ニ関スル件 五七 五八 四五

1 同盟及聯合國ト十國トノセーヴル條約軍事条項等実施並希土両國間調停問題ニ関スル件 **五九**

四六

英國側ノ猜疑ヲ招クコトアルヤモ計リ難キニ付今回ヘ出發
見合ハサンタン
英仏ヘ転電アリタシ

~~~~~

**五九** 十一月二十日 在仏國石井大使ヨリ  
内田外務大臣宛 (電報)

希士間ノ調停問題ニ關シテハ我方ハ傍観シ可

然眞廩申ノ件

(十一月三十一日接受)

内田公使発閣下宛第一〇八号ニ関シ本件ハ希臘ヨリ英仏伊

在英大使ヘ転電セリ

第一七八七号

条約ノ改訂ニアリトセバ我ハ当然参加スベキモ仏國當局ノ  
本使ニ語レル所ハ往電第一七〇九号ノ如ク希臘首相ノ懇願  
ニ依リ調停ノ余地アリヤ否ヤヲ見ルニアリトセバ我ハ傍観シテ然ル可キ儀ト思考セザルヲ得ズ  
在英大使ヘ転電セリ

君府ヘ転電セリ

### 事項III 国際聯盟理事會ニ關スル件 (第十一回乃至第十五回)

KO 11月四日 在仏國石井大使ヨリ  
内田外務大臣宛 (電報)

第十一回聯盟理事會議題及報知者通報ノ件

第一四七即

次回聯盟理事會(11月11日)「公報」ノニ於小  
開催ヤハルベク議題及報告者左ノ通り

1. Committees to be set up as result of Assembly resolutions.
  - a. Appointment of Committee on Amendments to the Covenant (Spanish representative).
  - b. Appointment of Committee on Article 18 of the Covenant (Italian).
  - c. Appointment of Committee on Blockade (Italian).
  - d. Appointment of Committee to Examine the Work of the Secretariat and International Labour Office (Chinese).
  - e. Consideration of Assembly Resolutions on reduction of armaments (French).
2. Questions arising out of Resolutions.
  - a. Declaration concerning children in countries impoverished by war (British).
  - b. Consideration of the Assembly Resolutions on the traffic in women and children (British).
  - c. Consideration of the Assembly Resolutions on intellectual work (Britain).
  - d. Publicity of council proceedings (Belgian).
  - e. Appointment of auditors of accounts for the period ending December 31, 1920 (Chinese).
  - f. Armenian question (Spanish).

11 國際聯盟理事會ニ關スル件 (第十五回乃至第十四回) KO

四七